



サーバの管理

この章は、次の項で構成されています。

- [サーバのブート順の設定](#) (1 ページ)
- [サーバのリセット](#) (3 ページ)
- [サーバのシャットダウン](#) (4 ページ)
- [Cisco IOS CLI 設定変更のロック](#) (4 ページ)
- [Cisco IOS CLI 設定変更のロック解除](#) (6 ページ)
- [サーバの電源管理](#) (7 ページ)
- [BIOS の設定](#) (15 ページ)

サーバのブート順の設定



(注) ホストが BIOS 電源投入時自己診断テスト (POST) を実行している間は、ブート順を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	bios コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # set boot-order <i>category:device1[,category:device2[,category:device3</i> <i>[,category:device4[,category:device5]]]]</i>	ブート デバイス オプションと順序を指定します。 (注) オプションでは、大文字と小文字は区別されません。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>次の 1 つ以上を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • cdrom : ブート可能な CD-ROM <ul style="list-style-type: none"> • 仮想 CD • fdd : フロッピーディスク ドライブ <ul style="list-style-type: none"> • 仮想フロッピー • hdd : ハードディスク ドライブ <ul style="list-style-type: none"> • RAID • キプロス • 仮想 HiFd • pxe : PXE ブート <ul style="list-style-type: none"> • GigEth0 • GigEth1 • GigEth2 • GigEth3 • efi : Extensible Firmware Interface
ステップ 3	Server /bios # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	(任意) Server /bios # show detail	サーバのブート順を表示します。

新規のブート順は、次の BIOS のブートで使用されます。

例

次に、ブート順を設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
Server# scope bios
Server /bios # set boot-order cdrom:Virtual-CD,hdd:raid,efi
To manage boot-order:
- Reboot server to have your boot-order settings take place
- Do not disable boot options via BIOS screens
- If a specified device type is not seen by the BIOS, it will be removed
  from the boot order configured on the BMC
- Your boot order sequence will be applied subject to the previous rule.
  The configured list will be appended by the additional device types
  seen by the BIOS
Server /bios *# commit
Server /bios #
Server /bios # show detail
```

```

BIOS:
  BIOS Version: "UCSES.1.5.0.1 (Build Date: 02/14/2013)"
  Boot Order: CDROM:Virtual-CD,HDD:RAID,EFI
  FW Update/Recovery Status: None, OK
  Active BIOS: main

```

サーバのリセット

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順の概要

1. `Server# scope chassis`
2. `Server /chassis # power hard-reset`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>Server# scope chassis</code>	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	<code>Server /chassis # power hard-reset</code>	<p>確認プロンプトの後に、サーバがリセットされます。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバ電源の再投入は、サーバの物理的な電源ボタンを押して電源をオフにした後に、電源をオンにする動作と同じです。 • 電源のハードリセットは、サーバの実際のリセット ボタンを押す動作と同じです。

例

次に、サーバをリセットする例を示します。

```

Server# scope chassis
Server /chassis # power hard-reset
This operation will change the server's power state.
Continue?[y|N]

```

サーバのシャットダウン

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順の概要

1. `Server# scope chassis`
2. `Server /chassis # power shutdown`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>Server# scope chassis</code>	シャーシモードを開始します。
ステップ 2	<code>Server /chassis # power shutdown</code>	<p>確認プロンプトの後で、サーバをシャットダウンします。</p> <p>(注) NIM E シリーズ NCE のシャットダウンには最大 60 秒かかります。シャットダウンを 2、3 回試しても NIM E シリーズ NCE がシャットダウンしない場合は、ルータから次のコマンドを入力します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <code>Router # hw-module subslot 0/NIM-slot-number stop</code> 2. <code>Router # hw-module subslot 0/NIM-slot-number start</code>

例

次に、サーバをシャットダウンする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # power shutdown
This operation will change the server's power state.
Do you want to continue?[y|N]y
```

Cisco IOS CLI 設定変更のロック

Cisco IOS CLI を使用して設定変更が行われないようにするには、この手順を実行します。

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順の概要

1. Server# **scope chassis**
2. Server /chassis # **show detail**
3. Server /chassis # **set ios-lockout locked**
4. Server /chassis* # **commit**
5. Server /chassis # **show detail**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # show detail	(任意) サーバのプロパティを表示します。IOS ロックアウトの現在のステータス (ロックまたはロック解除されているかどうか) を決定することができます。
ステップ 3	Server /chassis # set ios-lockout locked	設定変更が Cisco IOS CLI を使用して行われなようにします。
ステップ 4	Server /chassis* # commit	変更をコミットします。
ステップ 5	Server /chassis # show detail	(任意) サーバのプロパティを表示します。IOS ロックアウトの現在のステータス (ロックまたはロック解除されているかどうか) を決定することができます。

例

次に、設定変更が Cisco IOS CLI を使用して行われなようにする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # show detail
Chassis:
  Power: on
  Power Button: unlocked
  IOS Lockout: unlocked
  Serial Number: FHH16150031
  Product Name: E160DP
  PID : UCS-E160DP-M1/K9
  UUID: 0024C4F4-89F2-0000-A7D1-770BCA4B8924
  Description
Server /chassis # set ios-lockout locked
Server /chassis* # commit
Server /chassis # show detail
```

```

Chassis:
  Power: on
  Power Button: unlocked
  IOS Lockout: locked
  Serial Number: FHH16150031
  Product Name: E160DP
  PID : UCS-E160DP-M1/K9
  UUID: 0024C4F4-89F2-0000-A7D1-770BCA4B8924
  Description

```

Cisco IOS CLI 設定変更のロック解除

この手順を使用して、Cisco IOS CLI を使用した設定変更を許可します。

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順の概要

1. Server# **scope chassis**
2. Server /chassis # **show detail**
3. Server /chassis # **set ios-lockout unlocked**
4. Server /chassis* # **commit**
5. Server /chassis # **show detail**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # show detail	(任意) サーバのプロパティを表示します。IOS ロックアウトの現在のステータス (ロックまたはロック解除されているかどうか) を決定することができます。
ステップ 3	Server /chassis # set ios-lockout unlocked	Cisco IOS CLI を使用した設定変更を許可します。
ステップ 4	Server /chassis* # commit	変更をコミットします。
ステップ 5	Server /chassis # show detail	(任意) サーバのプロパティを表示します。IOS ロックアウトの現在のステータス (ロックまたはロック解除されているかどうか) を決定することができます。

例

次に、Cisco IOS CLI を使用した設定変更を許可する例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # show detail
Chassis:
  Power: on
  Power Button: unlocked
  IOS Lockout: locked
  Serial Number: FHH16150031
  Product Name: E160DP
  PID : UCS-E160DP-M1/K9
  UUID: 0024C4F4-89F2-0000-A7D1-770BCA4B8924
  Description
Server /chassis # set ios-lockout unlocked
Server /chassis* # commit
Server /chassis # show detail
Chassis:
  Power: on
  Power Button: unlocked
  IOS Lockout: unlocked
  Serial Number: FHH16150031
  Product Name: E160DP
  PID : UCS-E160DP-M1/K9
  UUID: 0024C4F4-89F2-0000-A7D1-770BCA4B8924
  Description
```

サーバの電源管理

サーバの電源投入



- (注) サーバの電源が CIMC 経由以外の何らかの方法でオフにされた場合、サーバは電源をオンにしてもすぐにはアクティブになりません。この場合、CIMC が初期化を完了するまで、サーバはスタンバイ モードに入ります。

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順の概要

1. Server# **scope chassis**
2. Server /chassis # **power on**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # power on	確認のプロンプトが表示されたら、サーバの電源をオンにします。

例

次に、サーバの電源をオンにする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # power on
This operation will change the server's power state.
Continue?[y|N]y

Server /chassis # show
Power Serial Number Product Name PID UUID
-----
on FOC16161F1P E160D UCS-E160D-M... 1255F7F0-9F17-0000-E312-94B74999D9E7
```

サーバの電源オフ



(注) この手順は NIM E シリーズ NCE には適用されません。

始める前に

このタスクを実行するには、**user** または **admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順の概要

1. Server# **scope chassis**
2. Server /chassis # **power off**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # power off	サーバの電源をオフにします。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) NIM E シリーズ NCE では、power shutdown コマンドを使用することをお勧めします。電源を切る必要がある場合は、ルータで次のコマンドを使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Router # hw-module subslot 0/NIM-slot-number stop 2. Router # hw-module subslot 0/NIM-slot-number start

例

次に、サーバの電源をオフにする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # power off
This operation will change the server's power state.
Continue?[y|N]y

Server /chassis # show
Power Serial Number Product Name PID UID
-----
off FOC16161F1P E160D UCS-E160D-M... 1255F7F0-9F17-0000-E312-94B74999D9E7
```

サーバ電源の再投入



(注) この手順は NIM E シリーズ NCE には適用されません。

始める前に

このタスクを実行するには、**user** または **admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順の概要

1. Server# **scope chassis**
2. Server /chassis # **power cycle**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	Server /chassis # power cycle	<p>確認のプロンプトが表示されたら、サーバの電源を再投入します。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバ電源の再投入は、サーバの物理的な電源ボタンを押して電源をオフにした後に、電源をオンにする動作と同じです。 • 電源のハードリセットは、サーバの実際のリセット ボタンを押す動作と同じです。 <p>(注) NIM E シリーズ NCE では、power shutdown コマンドを使用することをお勧めします。電源を再投入する必要がある場合は、ルータで次のいずれかのコマンドを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1. Router # hw-module subslot 0/NIM-slot-number stop • 2. Router # hw-module subslot 0/NIM-slot-number start • Router # hw-module subslot 0/NIM-slot-number reload <p>(注) このコマンドにより、モジュールの電源が再投入されます。CIMC とサーバがリブートします。</p>

例

次に、サーバ電源を再投入する例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # power cycle
This operation will change the server's power state.
Continue?[y|N]y
```

電力復元ポリシーの設定

電力復元ポリシーによって、シャージの電力供給が失われた後、サーバに電力を復元する方法が決定されます。

始める前に

このタスクを実行するには、**admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。



(注) これらのコマンドは、ISR 4K ルータでのみサポートされます。ISR G2 ではサポートされません。ISR G2 の場合は、CIMC の BIOS 設定を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope cimc	CIMC コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # scope power-restore-policy	電力復元ポリシー コマンドを入力します。
ステップ 3	Server /cimc/power-restore-policy # set policy {power-off power-on restore-last-state}	シャージの電源が復旧した場合に実行するアクションを指定します。次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • power-off : サーバの電源は、手動で投入されるまでオフのままになります。 • power-on : サーバの電源は、シャージの電源が回復したときにオンになります。 • restore-last-state : サーバを電源損失前と同じ電源状態（オフまたはオン）に復元します。これがデフォルトのアクションになります。
ステップ 4	Server /cimc/power-restore-policy# commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

ISR G2 上のモジュール

次の例では、電力復元ポリシーを **power-on** に設定して、トランザクションをコミットします。

```
Server# scope BIOS
Server /BIOS # scope server-management
Server /BIOS/server-management # set ResumeOnACPowerLoss power-on
Server /BIOS/server-management # commit
Server /BIOS/server-management # show detail
```

```
Power Restore Policy:
  Power Restore Policy: power-on

Server /BIOS/server-management #
```



- (注) CLI で変更された設定を確認できますが、設定を有効にするにはサーバをリブートする必要があります。

ISR4K 上のモジュール

次の例では、電力復元ポリシーを `power-on` に設定して、トランザクションをコミットします。

```
Server# scope CIMC
Server /CIMC # scope power-restore-policy
Server /CIMC/power-restore-policy # set policy power-on
Server /CIMC/power-restore-policy *# commit
Server /CIMC/power-restore-policy # show detail
Power Restore Policy:
  Power Restore Policy: power-on

Server /CIMC/power-restore-policy #
```

サーバの前面パネルの電源ボタンのロック



- (注) この手順は E シリーズ サーバおよび S M E シリーズ NCE に適用されます。この手順は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。

物理サーバの前面パネルにある物理電源ボタンをディセーブルにするには、この手順を使用します。電源ボタンがディセーブルになると、前面パネルの電源ボタンを使用してサーバの電源をオンまたはオフにすることはできません。

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順の概要

1. `Server# scope chassis`
2. `Server /chassis # show detail`
3. `Server /chassis # set power-button locked`
4. `Server /chassis* # commit`
5. `Server /chassis # show detail`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # show detail	(任意) サーバのプロパティが表示されます。電源ボタンの現在のステータス (ロックまたはロック解除されているかどうか) を決定することができます。
ステップ 3	Server /chassis # set power-button locked	電源ボタンをディセーブルにします。前面パネルの電源ボタンを使用して、サーバの電源をオンまたはオフにすることはできません。
ステップ 4	Server /chassis* # commit	変更をコミットします。
ステップ 5	Server /chassis # show detail	(任意) サーバのプロパティが表示されます。電源ボタンの現在のステータス (ロックまたはロック解除されているかどうか) を決定することができます。

例

次に、物理サーバの前面パネルにあるサーバの物理的な電源ボタンをディセーブルにする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # show detail
Chassis:
  Power: on
  Power Button: unlocked
  IOS Lockout: unlocked
  Serial Number: FHH16150031
  Product Name: E160DP
  PID : UCS-E160DP-M1/K9
  UUID: 0024C4F4-89F2-0000-A7D1-770BCA4B8924
  Description
Server /chassis # set power-button locked
Server /chassis* # commit
Server /chassis # show detail
Chassis:
  Power: on
  Power Button: locked
  IOS Lockout: unlocked
  Serial Number: FHH16150031
  Product Name: E160DP
  PID : UCS-E160DP-M1/K9
  UUID: 0024C4F4-89F2-0000-A7D1-770BCA4B8924
  Description
```

サーバの前面パネルにある電源ボタンのロック解除



(注) この手順はE シリーズ サーバおよび SM E シリーズ NCE に適用されます。この手順は EHWIC E シリーズ NCE および NIM E シリーズ NCE には適用されません。

物理サーバの前面パネルにある実際の電源ボタンを有効にするには、この手順を使用します。電源ボタンが有効になっていると、前面パネルの電源ボタンを使用してサーバの電源をオンまたはオフにすることができます。

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順の概要

1. `Server# scope chassis`
2. `Server /chassis # show detail`
3. `Server /chassis # set power-button unlocked`
4. `Server /chassis* # commit`
5. `Server /chassis # show detail`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>Server# scope chassis</code>	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	<code>Server /chassis # show detail</code>	(任意) サーバのプロパティが表示されます。電源ボタンの現在のステータス (ロックまたはロック解除されているかどうか) を決定することができます。
ステップ 3	<code>Server /chassis # set power-button unlocked</code>	電源ボタンをイネーブルにします。サーバの電源をオンまたはオフにするには、前面パネルの電源ボタンを使用できます。
ステップ 4	<code>Server /chassis* # commit</code>	変更をコミットします。
ステップ 5	<code>Server /chassis # show detail</code>	(任意) サーバのプロパティが表示されます。電源ボタンの現在のステータス (ロックまたはロック解除されているかどうか) を決定することができます。

例

次に、物理サーバの前面パネルにあるサーバの物理的な電源ボタンを有効にする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # show detail
Chassis:
  Power: on
  Power Button: locked
  IOS Lockout: unlocked
  Serial Number: FHH16150031
  Product Name: E160DP
  PID : UCS-E160DP-M1/K9
  UUID: 0024C4F4-89F2-0000-A7D1-770BCA4B8924
  Description
Server /chassis # set power-button unlocked
Server /chassis* # commit
Server /chassis # show detail
Chassis:
  Power: on
  Power Button: unlocked
  IOS Lockout: unlocked
  Serial Number: FHH16150031
  Product Name: E160DP
  PID : UCS-E160DP-M1/K9
  UUID: 0024C4F4-89F2-0000-A7D1-770BCA4B8924
  Description
```

BIOS の設定

BIOS ステータスの表示

手順の概要

1. Server# **scope bios**
2. Server /bios # **show detail**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # show detail	BIOS ステータスの詳細を表示します。

BIOS ステータス情報には、次のフィールドが含まれます。

名前	説明
BIOS Version	実行中の BIOS のバージョン文字列。

名前	説明
Boot Order	サーバが使用を試行する、ブート可能なターゲット タイプの順序。
FW Update/Recovery Status	保留中のファームウェア アップデートまたは回復アクションのステータス。
FW Update/Recovery Progress	直近のファームウェア アップデートまたは回復アクションの完了率。

例

次に、BIOS ステータスを表示する例を示します。

```
Server# scope bios
Server /bios # show detail
  BIOS Version: "C460M1.1.2.2a.0 (Build Date: 01/12/2011)"
  Boot Order: EFI,CDROM,HDD
  FW Update/Recovery Status: NONE
  FW Update/Recovery Progress: 100

Server /bios #
```

BIOS の詳細設定



(注) 搭載されているハードウェアによっては、このトピックで説明されている一部の設定オプションが表示されない場合があります。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # scope advanced	高度な BIOS 設定コマンド モードを開始します。
ステップ 3	BIOS 設定を設定します。	CLI コマンドに関する各 BIOS 設定のオプションの詳細については、次のトピックを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 詳細：プロセッサ BIOS 設定 (20 ページ) 詳細：メモリ BIOS 設定 (28 ページ)

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • 詳細：シリアルポート BIOS 設定 (28 ページ) • 詳細：USB BIOS 設定 (29 ページ)
ステップ 4	Server /bios/advanced # commit	<p>トランザクションをシステムの設定にコミットします。</p> <p>変更内容は次のサーバのリブート時に適用されます。サーバの電源が投入されている場合、すぐにリブートするかどうかを質問されます。</p>

例

次に、Intel Virtualization Technology をイネーブルにする例を示します。

```
Server# scope bios
Server /bios # scope advanced
Server /bios/advanced # set IntelVTD Enabled
Server /bios/advanced *# commit
Changes to BIOS set-up parameters will require a reboot.
Do you want to reboot the system?[y|N] n
Changes will be applied on next reboot.
Server /bios/advanced #
```

サーバ管理 BIOS の設定

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # scope server-management	サーバ管理 BIOS 設定コマンドモードを開始します。
ステップ 3	BIOS 設定を設定します。	<p>CLI コマンドに関する各 BIOS 設定のオプションの詳細については、次のトピックを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバ管理 BIOS 設定 (29 ページ)
ステップ 4	Server /bios/server-management # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

	コマンドまたはアクション	目的
		変更内容は次のサーバのリブート時に適用されます。サーバの電源が投入されている場合、すぐにリブートするかどうかを質問されます。

例

次に、ボー レートを 9.6k に設定する例を示します。

```
Server# scope bios
Server /bios # scope server-management
Server /bios/server-management # set BaudRate 9.6k
Server /bios/server-management *# commit
Changes to BIOS set-up parameters will require a reboot.
Do you want to reboot the system?[y|N] n
Changes will be applied on next reboot.
Server /bios/server-management #
```

BIOS CMOS のクリア

非常に珍しいケースですが、サーバのトラブルシューティング時に、サーバの BIOS CMOS メモリのクリアが必要になることがあります。この手順は、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

手順の概要

1. Server# **scope bios**
2. Server /bios # **clear-cmos**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # clear-cmos	確認を求めるプロンプトの後に、CMOSメモリがクリアされます。 (注) Cisco UCS-E160S-M3/K9 サーバ (UCS E M3 サーバ) で clear-cmos コマンドを実行すると、CPU が一時的なデフォルト状態になるため、次回サーバに電源を投入したときにブート時間が非常に長くなります (35 ~ 40 分)。この問題を回避するには、ブート時に 1 ~ 2 分待ってからサーバの電源を入れ直します。ブート時間が正常に戻ります。

例

次に、BIOS CMOS メモリをクリアする例を示します。

```

Server# scope bios
Server /bios # clear-cmos
This operation will clear the BIOS CMOS.
Note: Server should be in powered off state to clear CMOS.
Continue?[y|N] y

```

BIOS パスワードのクリア

手順の概要

1. Server# **scope bios**
2. Server /bios # **clear-bios-password**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # clear-bios-password	BIOS パスワードをクリアします。パスワードのクリア処理を有効にするには、サーバをリブートする必要があります。サーバがリブートすると、新しいパスワードを作成するように求められます。

例

次に、BIOS パスワードをクリアする例を示します。

```

Server# scope bios
Server /bios # clear-bios-password
This operation will clear the BIOS Password.
Note: Server should be rebooted to clear BIOS password.
Continue?[y|N]y

```

BIOS デフォルトの復元

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順の概要

1. Server# **scope bios**
2. Server /bios # **bios-setup-default**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # bios-setup-default	BIOS のデフォルト設定を復元します。このコマンドでは、リブートが開始されます。

例

次の例は、BIOS デフォルト設定を復元します。

```
Server# scope bios
Server /bios # bios-setup-default
This operation will reset the BIOS set-up tokens to factory defaults.
All your configuration will be lost.
Changes to BIOS set-up parameters will initiate a reboot.
Continue?[y|N]y
```

サーバ BIOS 設定

次の各表に、表示および設定が可能なサーバ BIOS 設定を示します。



- (注) お使いのサーバでの BIOS 設定のサポート状況を確認することを推奨します。搭載されているハードウェアによっては、一部の設定がサポートされていない場合があります。

詳細：プロセッサ BIOS 設定

名前	説明
[Intel Turbo Boost Technology] [Intel Turbo Boost Technology]	<p>プロセッサでインテルターボブーストテクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、仕様よりも低い電力、温度、または電圧でプロセッサが動作していると、自動的にそのプロセッサの周波数が上がります。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled]：プロセッサの周波数は自動的に上がりません。 • [Enabled]：必要に応じてプロセッサで Turbo Boost Technology が利用されます。

名前	説明
[Enhanced Intel Speedstep Technology]	<p>プロセッサで拡張版 Intel SpeedStep テクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、プロセッサの電圧やコア周波数をシステムが動的に調整できます。このテクノロジーにより、平均電力消費量と平均熱発生量が減少する可能性があります。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサの電圧または周波数を動的に調整しません。 • [Enabled] : プロセッサで Enhanced Intel SpeedStep Technology が使用され、サポートされているすべてのスリープ状態でさらに電力を節約することが可能になります。 <p>オペレーティングシステムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティングシステムのベンダーに問い合わせることを推奨します。</p>
[Intel Hyper-Threading Technology]	<p>プロセッサでインテルハイパースレッディングテクノロジーを使用するかどうか。このテクノロジーでは、マルチスレッドソフトウェアアプリケーションのスレッドを各プロセッサ内で並列に実行できます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサでのハイパースレッディングを禁止します。 • [Enabled] : プロセッサでの複数スレッドの並列実行を許可します。 <p>オペレーティングシステムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティングシステムのベンダーに問い合わせることを推奨します。</p>

名前	説明
[Number of Enabled Cores]	<p>パッケージ内の論理プロセッサ コアの状態を設定します。この設定をディセーブルにすると、ハイパースレッディングもディセーブルになります。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [All] : すべての論理プロセッサ コアでマルチプロセッシングをイネーブルにします。 • [1] ~ [n] : サーバ上で動作できる論理プロセッサ コアの数を指定します。マルチプロセッシングをディセーブルにし、サーバ上で動作する論理プロセッサ コアを1つだけにするには、[1]を選択します。 <p>オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。</p>
[Execute Disable]	<p>アプリケーション コードを実行できる場所を指定するために、サーバのメモリ領域を分類します。この分類の結果、悪意のあるワームがバッファにコードを挿入しようとした場合、プロセッサでコードの実行を無効にします。この設定は、損害、ワームの増殖、および特定クラスの悪意のあるバッファ オーバーフロー攻撃を防止するのに役立ちます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサでメモリ領域を分類しません。 • [Enabled] : プロセッサでメモリ領域を分類します。 <p>オペレーティング システムがこの機能をサポートするかどうかについては、オペレーティング システムのベンダーに問い合わせることを推奨します。</p>

名前	説明
[Intel Virtualization Technology]	<p>プロセッサで Intel Virtualization Technology (VT) を使用するかどうか。このテクノロジーでは、1つのプラットフォームで、複数のオペレーティングシステムとアプリケーションをそれぞれ独立したパーティション内で実行できます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサでの仮想化を禁止します。 • [Enabled] : プロセッサで、複数のオペレーティングシステムをそれぞれ独立したパーティション内で実行できます。 <p>(注) このオプションを変更した場合は、設定を有効にするためにサーバの電源を再投入する必要があります。</p>
[Intel VT for Directed IO]	<p>Intel Virtualization Technology for Directed I/O (VT-d) をプロセッサで使用するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサで仮想化テクノロジーを使用しません。 • [Enabled] : プロセッサで仮想化テクノロジーを使用します。
[Intel VT-d Interrupt Remapping]	<p>プロセッサで Intel VT-d Interrupt Remapping をサポートするかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサでリマッピングをサポートしません。 • [Enabled] : プロセッサで VT-d Interrupt Remapping を必要に応じて使用します。
[Intel VT-d Coherency Support]	<p>プロセッサで Intel VT-d Coherency をサポートするかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサでコヒーレンシをサポートしません。 • [Enabled] : プロセッサで VT-d Coherency を必要に応じて使用します。

名前	説明
[Intel VT-d Address Translation Services]	<p>プロセッサで Intel VT-d Address Translation Services (ATS) をサポートするかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサで ATS をサポートしません。 • [Enabled] : プロセッサで VT-d ATS を必要に応じて使用します。
[Intel VT-d PassThrough DMA]	<p>プロセッサで Intel VT-d Pass-through DMA をサポートするかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサでパススルー DMA をサポートしません。 • [Enabled] : プロセッサで VT-d Pass-through DMA を必要に応じて使用します。
[Direct Cache Access]	<p>プロセッサで、データを I/O デバイスから直接プロセッサ キャッシュに入れることにより、I/O パフォーマンスを向上させることができます。この設定はキャッシュミスが減らすのに役立ちます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : データは I/O デバイスから直接プロセッサ キャッシュには入れられません。 • [Enabled] : データは I/O デバイスから直接プロセッサ キャッシュに入れられます。
[Processor C3 Report]	<p>プロセッサからオペレーティングシステムに C3 レポートを送信するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサから C3 レポートを送信しません。 • [ACPI_C2][ACPI_C2] : C2 フォーマットを使用してプロセッサから C3 レポートを送信します。 • [ACPI_C3][ACPI_C3] : C3 フォーマットを使用してプロセッサから C3 レポートを送信します。

名前	説明
[Processor C6 Report]	<p>プロセッサからオペレーティングシステムにC6レポートを送信するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : プロセッサからC6レポートを送信しません。 • [Enabled] : プロセッサからC6レポートを送信します。
[Hardware Prefetcher]	<p>プロセッサで、インテルハードウェアプリフェッチャが必要に応じてデータおよび命令ストリームをメモリから取得し、統合2次キャッシュに入れることを許可するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : ハードウェアプリフェッチャは使用しません。 • [Enabled] : プロセッサで、キャッシュの問題が検出されたときにプリフェッチャを使用します。 <p>(注) この値を設定するには、で[Custom]を選択する必要があります。[Custom]以外の値の場合は、このオプションよりも、選択されたCPUパフォーマンスプロファイルの設定が優先されます。</p>
[Adjacent Cache-Line Prefetch]	<p>プロセッサで、Intel Adjacent Cache-Line Prefetch メカニズムを使用して必要に応じてデータを取得するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : Adjacent Cache-Line Prefetch メカニズムは使用しません。 • [Enabled] : キャッシュの問題が検出されたときにAdjacent Cache-Line Prefetch メカニズムを使用します。 <p>(注) この値を設定するには、で[Custom]を選択する必要があります。[Custom]以外の値の場合は、このオプションよりも、選択されたCPUパフォーマンスプロファイルの設定が優先されます。</p>

名前	説明
[Boot Option Rom]	<p>ROMの種類を設定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Legacy : サーバはレガシー オプション ROM を起動します。 • UEFI : サーバはレガシー UEFI ROM を起動します。 • Disabled : オプション ROM は使用できません。
[Package C State Limit]	<p>アイドル時にサーバ コンポーネントが使用できる電力量。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [C0 state][C0_state] : サーバはすべてのサーバコンポーネントに常にフルパワーを提供します。このオプションでは、最高レベルのパフォーマンスが維持され、最大量の電力が必要となります。 • [C2 state][C2_state] : システムレベルの調整が進行中のため、電力消費が多くなります。調整が完了するまで、パフォーマンス上の問題が発生する可能性があります。 • [C6 state][C6_state] : CPUのアイドル時に、システムはC3オプションの場合よりもさらに電力消費を減らします。このオプションでは、節約される電力がC0またはC2よりも多くなりますが、サーバがフルパワーに戻るまで、パフォーマンス上の問題が発生する可能性があります。 • [C7 state][C7_state] : CPUのアイドル時に、サーバはコンポーネントが使用できる電力量を最小にします。このオプションでは、節約される電力量が最大になりますが、サーバがハイパフォーマンスモードに戻るのに要する時間も最も長くなります。 • [No Limit][No_Limit] : サーバは、使用可能な任意のCステートに入ることがあります。 <p>(注) このオプションは [CPU C State] がイネーブルの場合にのみ使用されます。</p>

名前	説明
[Boot Order Rules]	<p>CIMCで指定されたブート順と BIOS セットアップユーティリティで指定されたブート順のどちらに従ってシステムがブートするか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Strict] : システムは CIMC で指定されたブート順に従ってブートします。 • [Loose] : システムは BIOS セットアップユーティリティで指定されたブート順に従ってブートします。
[Patrol Scrub]	<p>システムがサーバ上のメモリの未使用部分でも単一ビットメモリエラーをアクティブに探して訂正するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : CPU がメモリアドレスの読み取りまたは書き込みを行うときのみ、システムはメモリの ECC エラーをチェックします。 • [Enabled] : システムは定期的にメモリを読み書きして ECC エラーを探します。エラーが見つかった場合、システムは修正を試みます。このオプションにより、単一ビットエラーは複数ビットエラーになる前に修正される場合がありますが、パトロールスクラブの実行時にパフォーマンスが低下する場合があります。
[Demand Scrub]	<p>システムがオンデマンドでのメモリのスクラビング処理を許可するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : システムはオンデマンドでのメモリのスクラビング処理を許可しません。 • [Enabled] : システムはオンデマンドでのメモリのスクラビング処理を許可します。エラーが発生した場合、システムは修正を試みるか、読み込めないというマークを付けます。このプロセスは、システムを少数のデータ処理エラーにより迅速に実行します。

名前	説明
[Device Tagging]	<p>システムが、説明、アドレス、名前を含むさまざまな情報に基づいた、デバイスとインターフェイスのグループ化を許可するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : システムはデバイスとインターフェイスのグループ化を許可しません。 • [Enabled] : システムはデバイスとインターフェイスのグループ化を許可します。

詳細 : メモリ BIOS 設定

名前	説明
[Select Memory RAS]	<p>サーバに対するメモリの信頼性、可用性および機密性 (RAS) の設定方法。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Maximum Performance][Maximum_Performance] : システムのパフォーマンスが最適化されます。 • [Mirroring] : システムのメモリの半分をバックアップとして使用することにより、システムの信頼性が最適化されます。 • [Sparing] : 一定のメモリ冗長性でシステムの信頼性を強化しながら、ミラーリングの場合よりも多くのメモリをオペレーティングシステムが使用できるようにします。

詳細 : シリアルポート BIOS 設定

名前	説明
[Serial A Enable]	<p>シリアルポート A を有効にするか無効にするか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : シリアルポートは無効になります。 • [Enabled] : シリアルポートは有効になります。

詳細：USB BIOS 設定

名前	説明
[USB Port 0]	<p>プロセッサで USB ポート 0 を使用するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : サーバで USB ポート 0 を使用しません。 • [Enabled] : プロセッサで USB ポート 0 を使用します。
[USB Port 1]	<p>プロセッサで USB ポート 1 を使用するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : サーバで USB ポート 1 を使用しません。 • [Enabled] : プロセッサで USB ポート 1 を使用します。

サーバ管理 BIOS 設定

名前	説明
[Assert NMI on SERR]	<p>システムエラー（SERR）の発生時に、BIOS がマスク不能割り込み（NMI）を生成し、エラーをログに記録するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : SERR の発生時に、BIOS は NMI を生成することもエラーをログに記録することもしません。 • [Enabled] : SERR の発生時に、BIOS は NMI を生成し、エラーをログに記録します。[Assert NMI on PERR] を有効にする場合は、この設定を有効にする必要があります。
[Assert NMI on PERR]	<p>プロセッサバスパリティエラー（PERR）の発生時に、BIOS がマスク不能割り込み（NMI）を生成し、エラーをログに記録するかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : PERR の発生時に、BIOS は NMI を生成することもエラーをログに記録することもしません。 • [Enabled] : PERR の発生時に、BIOS は NMI を生成し、エラーをログに記録します。この設定を使用するには、[Assert NMI on SERR] をイネーブルにする必要があります。

名前	説明
[FRB2 Enable]	<p>POST中にシステムがハングした場合に、システムを回復するために CIMC によって FRB2 タイマーが使用されるかどうか。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : FRB2 タイマーは使用されません。 • [Enabled] : POST 中に FRB2 タイマーが開始され、必要に応じてシステムの回復に使用されます。
[Console Redirection]	<p>POSTおよびBIOSのブート中に、シリアルポートをコンソールリダイレクションに使用できるようにします。BIOSのブートが完了し、オペレーティングシステムがサーバを担当すると、コンソールリダイレクションは関連がなくなり、無効になります。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : POST中にコンソールリダイレクションは発生しません。 • [Serial Port A][Serial_Port_A] : POST中のコンソールリダイレクション用にシリアルポートAをイネーブルにします。このオプションはブレードサーバおよびラックマウントサーバに対して有効です。 [Serial Port A] オプションを選択する場合は、[Advanced] メニューの [Serial Port A] もイネーブルにする必要があります。 <p>(注) このオプションを有効にする場合は、POST中に表示される Quiet Boot のロゴ画面を無効にします。</p>
[Flow Control]	<p>フロー制御にハンドシェイクプロトコルを使用するかどうか。送信要求/クリアツーセンド (RTS/CTS) は、隠れ端末の問題によって生じる可能性のあるフレーム衝突を減らすのに役立ちます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [None] : フロー制御は使用されません。 • [RTS-CTS] : RTS/CTS がフロー制御に使用されます。 <p>(注) この設定は、リモートターミナルアプリケーション上の設定と一致している必要があります。</p>

名前	説明
[Baud Rate]	<p>シリアルポートの伝送速度として使用されるボーレート。[Console Redirection] を無効にする場合は、このオプションを使用できません。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none">• [9.6k] : 9600 ボーレートが使用されます。• [19.2k] : 19200 ボーレートが使用されます。• [38.4k] : 38400 ボーレートが使用されます。• [57.6k] : 57600 ボーレートが使用されます。• [115.2k] : 115200 ボーレートが使用されます。 <p>(注) この設定は、リモートターミナルアプリケーション上の設定と一致している必要があります。</p>
[Terminal Type]	<p>コンソールリダイレクションに使用される文字フォーマットのタイプ。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none">• [PC-ANSI] : PC-ANSI 端末フォントが使用されます。• [VT100] : サポートされている vt100 ビデオ端末とその文字セットが使用されます。• [VT100-PLUS] : サポートされている vt100-plus ビデオ端末とその文字セットが使用されます。• [VT-UTF8] : UTF-8 文字セットのビデオ端末が使用されます。 <p>(注) この設定は、リモートターミナルアプリケーション上の設定と一致している必要があります。</p>

名前	説明
[OS Boot Watchdog Timer]	<p>BIOS が指定されたタイムアウト値でウォッチドッグタイマーをプログラムするかどうか。タイマーが切れる前にオペレーティングシステムのブートを完了しない場合、CIMC はシステムをリセットし、エラーがログに記録されます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : サーバのブートにかかる時間をトラッキングするためにウォッチドッグタイマーは使用されません。 • [Enabled] : サーバのブートにかかる時間をウォッチドッグタイマーでトラッキングします。サーバが [OS Boot Watchdog Timer Timeout] フィールドに指定された時間内にブートしない場合、CIMC はエラーをログに記録し、[OS Boot Watchdog Policy] フィールドに指定されたアクションを実行します。 set OSBootWatchdogTimerTimeout コマンドで指定された時間内にブートしない場合、CIMC はエラーをログに記録し、set OSBootWatchdogTimerPolicy コマンドで指定されたアクションを実行します。
[OS Boot Watchdog Timer Policy]	<p>ウォッチドッグタイマーが切れたときにシステムで実行されるアクション。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Do Nothing] : OS のブート中にウォッチドッグタイマーが切れたときに、サーバの電源状態は変化しません。 • [Power Down] : OS のブート中にウォッチドッグタイマーが切れた場合、サーバの電源はオフになります。 • [Reset] : OS のブート中にウォッチドッグタイマーが切れた場合、サーバはリセットされます。 <p>(注) このオプションは [OS Boot Watchdog Timer] を有効にする場合にのみ適用されます。</p>